

平成29年度 第5学年 授業改善推進プラン

教科	1学期に実施した課題と工夫	課題を受けた今後の改善策
国語	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★主語・述語、修飾、被修飾の関係など、文や文章のいろいろな構成を正しく理解して読んだり書いたりできるようにしたい。 ・「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などの文の構成について理解できるようにする。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆補助資料の活用 ・文章を書く際や読む際に、教師が例文を取り上げ、主語と述語とが照応しているか否か気が付けるようにする指導を続けていく。 ☆ことばの吟味 ・机間指導や個別指導で文の中での語句の役割や語句相互の関係に気を付けて文がどのように組み立てられているか意識しながら読んだり書いたりするよう声をかける。 	<p>C ことばの吟味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語・述語のねじれや修飾・被修飾の関係の違いについて、机間指導の中で訂正・助言ができるようにする。 ・机間指導の中で、具体的に間違いを指摘するのではなく「何かおかしいところない?」というように、自分の文章を読み直し、自ら間違いに気が付けるようにする。 <p>E 相互の学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で書いた文章や友達が書いた文章を読み合う機会を設けたり、文章の構成についてペアやグループで考える機会を設けたりして、主語・述語の照応関係や修飾・被修飾の関係について考えられるようにする。
社会	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★国土や産業に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味について考えたりすることができるようにしたい。 ・資料から必要な情報を読み取ったり、複数の資料を関連付けて読み取ったりできるようにする。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆相互の学び合いと手立て ・資料の読み取りを個人で行うだけでなく、一斉で共有することで、自分が読み取ることができなかった情報なども共有できるようにした。 ☆ことばの吟味 ・資料から読み取れることなら、どんなことでもよいとし、できるだけ多くの情報を資料から読み取るよう支援した。 	<p>B 教材開発と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことや考えたことについて根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明する機会を意図的に設けるようにする。 <p>E 相互での学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで収集した情報や資料から自分たちの課題において必要なものを取捨選択する時間を確実に設けるようにする。
算数	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★伴って変わる二つの数量の関係を考察する能力を高めたい。 ・表をかいたり読み取ったりする活動を通して、二つの数量の関係について考えられるようにする。 ★十進位取り記数法の考えを通して、整数や小数についての理解を深めさせたい。 ・十進数の特徴を理解し、数の大小や計算などに能率よく用いることができるようにする。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆教材の開発と工夫 ・児童が作成した問題を解き合うことで、児童にとって身近な場面についての二つの数量の関係を考えられるようにした。 ☆補助資料の活用 ・電子黒板を用いて位取りについて確認をし、10倍、100倍、10分の1、100分の1などの関係について考えられるようにした。 	<p>B 教材の開発と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な場面を例に出し、伴って変わる二つの数量の関係をイメージしながら表にかいたり読み取ったりすることができるようにする。 <p>E 相互の学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の大小や計算方法を形式的な操作で済ませるのではなく、その形式的な操作がどのような数学的な意味をもって行われているかなどを説明し合い、理解を深められるようにする。
理科	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★変化させる要因と変化させない要因を区別しながら、観察や実験を計画的に行い、条件制御の能力を育成したい。 ・条件制御した観察や実験の結果などから自然の事物・現象の規則性について考察し、確かな結論をもてるようにしたい。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ことばの吟味 ・変化させる要因と変化させない要因の区別ができるよう発問を考えた。また、条件制御をしたことよって得られた結論について、条件制御との関係について丁寧に確認した。 ☆相互の学び合い ・学習形態をグループでの学習にし、観察や実験の結果を相互に確認しながら進められるようにした。また、自分の考察と友達の考察を比較し、より深まった結論に至れるようにした。 	<p>A 指導目標の明確化と学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の際に、学習の見通しをもって活動したり、既習事項を生かして観察や実験の方法を考えたりして、活動の目的を明確にするようにする。 <p>F 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の目的に即して結論を導いたり、まとめをしたりすることが出来ているかを、教師だけでなく友達同士や学級全体で相互に評価するようにする。
体育	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★グループや個人の特徴に応じた学習計画を立て、それに基づいて協力したり助け合ったりしながら動くことができるようにしたい。 ・毎時間、個人やペア、グループでの目標を立て、授業後に達成できたかふり返られるようにする。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆学習目標の明確化と学習の見通し ・その時間の学級での最終目標を提示し、それに対する個人、ペア、チームの特徴をふまえた学習計画を立てられるようにした。 ☆補助教材の活用 ・学習カードを活用し、単元での自分の成長や課題を明確化できるようにした。 	<p>E 相互での学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動→振り返り→運動→振り返りの流れを確立し、お互いの良さや課題について話し合う機会を積極的に設け、互いに技能向上に向けて協力できるようにする。 <p>F 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時や単元の最後にふり返りの時間を設け、友達のよさを見つけ合い、相互評価ができるようにする。
<p>今年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <p>【課題】</p>		

